

塾虫培戸

令和4年 9月28日 No.20

学校教育目標

深く考え、心豊かな、
思いやりのある たくましい子

全国学力・学習状況調査 森の里小学校の傾向と概要

昨年度に続き今年度も、コロナ禍ではありましたが全国一斉で「全国学力・学習状況調査」が実施されました（今年度は理科が加わり、3教科の実施）。過日結果が公表されました。6年生の児童及び保護者には、9月中旬に個人

の結果（個人票）をお配りしました。

本校の学習や学習習慣等に関する傾向について概要をお伝えします。グラフなどを活用した詳細については、後日改めて学校だよりや学校ホームページでお知らせいたします。

学力調査結果

今年度の学力調査は、国語、算数、理科の3教科で実施しました。平均正答率は国語と算数では全道・全国より下回りましたが、理科においては全道・全国と同等の結果となりました。

国語

平均正答率は、全道・全国を下回りました。特に、学習指導要領の内容「書くこと」に関する領域が課題となりました。また、「読むこと」「話す・聞くこと」に関する領域においても、全道・全国の結果を下回り、課題が残りました。

算数

平均正答率は、全道・全国を下回りました。特に、学習指導要領の内容「変化と関係」「図形」「データの活用」の領域が課題となりました。また、「数と計算」に関する領域においては、全道と同等の結果となりました。

理科

平均正答率は、全道・全国と同等の結果となりました。学習指導要領の内容「生命」と「粒子」の領域では全道を上回りました。なお、「地球」、「エネルギー」に関する領域においては、全道・全国を下回り、課題が残りました。

問題形式

学力調査の解答形式は3つです。①「選択式」、②短い文で答える「短答式」、③50字や80字程度の文章で答える「記述式」があります。

形式ごとの正答率は、国語では、選択式は全道・全国との差は見られないものの、短答式（漢字）で大きな差が見られました。既習事項、基本的事項の未定着を課題と捉え、家庭と連携した繰り返しの練習（宿題や家庭学習）に取り組んでいきます。

また、記述式では無回答も多かったことから、昨年度から取り組んでいる朝活動の短作文（考えを整理して書くことや相手に伝えるように書く活動）を継続していきます。

算数においては、選択式や短答式では全道・全国を下回ったものの、その差は縮まるなど取り組みの成果が見られます。また、記述式では差は大きいものの、無回答は少なかったことから、数年来の授業研究を通して「自分の考えを書いたり、交流したりする力」が身につけてきたことが考えられます。既習事項、基本的事項の定着については国語と同様に、家庭と連携した繰り返しの練習（宿題や家庭学習）に取り組んでいきます。

理科では、どの問題形式においても児童は最後まで粘り強く、一生懸命に取り組む姿が見られました。特に短答式においては、全道・全国を上回る結果となりました。記述式においても無回答は比較的少ないことから、根拠を示したり、条件に合わせたりしながら自分の考えをまとめる力を育てていきたいと考えています。

児童質問調査結果

児童質問については、本校の特徴的な傾向を掲載しています。

よい傾向（肯定的な回答が85%以上） ※◎は95%以上の児童が肯定的に回答

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| ○ 朝食を毎日食べているか | ○ 毎朝、同じくらいの時刻に起きているか |
| ◎ いじめはどんな理由があってもいけないこと | ○ 人の役に立つ人間になりたいか |
| ○ 人が困っている時は進んで助けているか | ○ 友達と協力するのは楽しいか |
| ◎ ICT機器などは勉強の役に立っているか | |
| ○ 授業は、自分にあつた考え方や教材、学習内容になっているか | |
| ○ 国語や算数の学習は社会に出た時に役立つか | |
| ○ 国語・算数・理科の勉強は大切だと思うか | ○ 理科の授業内容はよくわかるか |

課題（肯定的な回答が60%以下）

- ▲ 将来の夢や目標を持っているか
- ▲ 社会をよくするためにすべきことを考えることはあるか
- ▲ 自分と違う意見について考えるのは楽しいか

改善策Ⅰ

今後も、生徒指導の3つの機能（①自己決定の場を与え、②自己肯定感を高め、③共感的な人間関係を構築する）に視点を当て日々の授業や子ども達の関わりに力を注ぎます。

改善策Ⅱ

教育活動において社会とのつながりを意識できるような工夫を継続するとともに、キャリア教育の更なる充実を図ります。また、様々な交流活動や話し合い活動を通して考える楽しさやおもしろさを味わうことができるよう工夫するとともに、多様な考えを受け入れる雰囲気づくりに努めていきます。

不審者の対応について

昨日、帯広市教育委員会より不審者等の注意に関するメール配信がありました。本校では、これまで不審者への対応については、児童に次のように指導しています。



- ① 一人で登下校しないよう心がける。
- ② 通学路の子ども110番の家（駆け込める建物）を確認する〔緑園ブロック危険マップには「こども110番の家」も掲載されています〕。
- ③ 用事の終わった生徒は、早めに帰宅する。
- ④ 万一、不審者に遭遇したときは、大声を上げる。また、見知らぬ人に声をかけられるなど、危険を感じたら近くの家に助けを求め、近くの交番（警察署）及び学校に事実を連絡する。
- ⑤ 必要に応じて防犯ブザーを着用する。

「いかのおすし」

- ・知らない人には、ついていかない
- ・知らない人の車にはのらない
- ・知らない人に連れて行かれそうになったらおお声を出す
- ・声をかけられたり追いかけられたりしたらすぐ逃げる
- ・こわい人に会ったり、見たりしたら、すぐに大人にしらせる

ご家庭でも、お子さんと向き合っていただき、充分注意されるようご理解とご協力をお願いいたします。また、学校としましても、その時々状況に応じて集団下校や保護者への引き渡し等の対応をとっていきたく考えています。お気づきの点などありましたら、学校までお知らせください。

後記

今号の標題「蟄虫啓戸（おしかくれてとをふさぐ）」（七十二候のうちの一つ）は、蟄虫啓戸【すごもりむしとをひらく】の逆で、寒い冬を前に虫たちが土の中に潜って巣ごもりを始める頃を言います。温かい土中でじっと春を待つ虫が再び姿を見せるのは約半年後の啓蟄（けいちつ）の頃となります。少しずつ秋の深まりを感じることができます。校庭の木々も葉を落としはじめています。